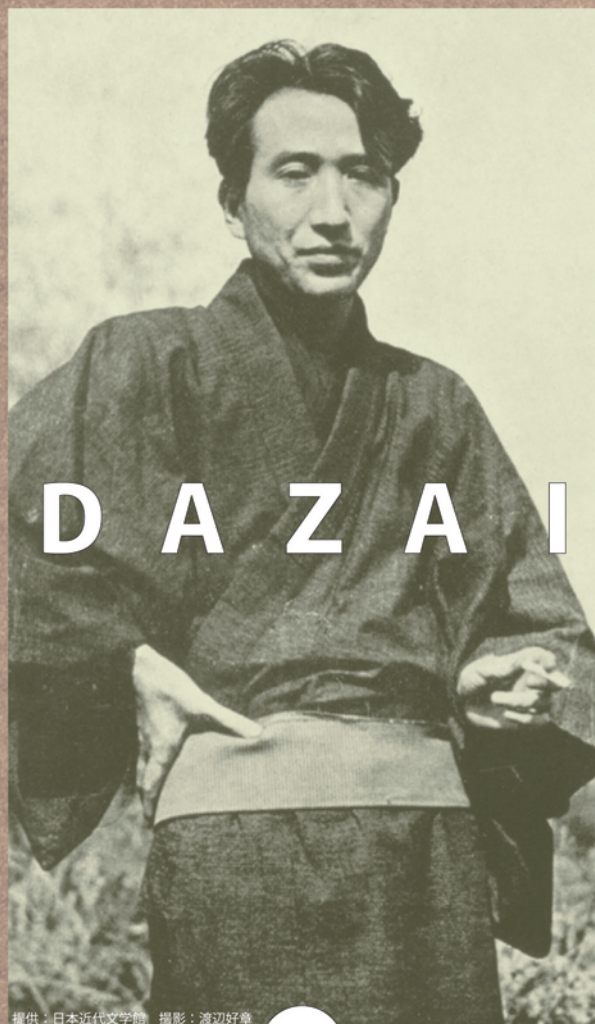




DAZAI

提供：日本近代文学館 撮影：渡辺好章

2017 会期 2018
10/12 THU ~ 2/25 SUN

【会場】

三鷹市 太宰治文学サロン

三鷹市下連雀3-16-14

グランジャルダン三鷹1階

☎：0422-26-9150

【開館時間】10：00～17：30

【入館料】無料

【休館日】月曜日(1/8・2/12の祝日は開館し、
その翌日・翌々日は休館)、
年末年始(12/29～1/4)

太
宰

と

芙
美
子



FUMIKO

2018 会期
3/6 TUE ~ 7/3 TUE

【会場】

新宿区立 林芙美子記念館

新宿区中井2-20-1

☎：03-5996-9207

【開館時間】10：00～16：30

(入館は16：00まで)

【入館料】大人150円、小中学生80円

【休館日】月曜日(月曜日が休日にあたる
ときはその翌日)、年末年始
(12/29～1/3)



太宰と芙美子

ベストセラーとなった『放浪記』が舞台化されるなど、今も色褪せぬ数々の名作を残した作家・林芙美子（1903－1951）。戦後『斜陽』がベストセラーとなり、無頼派の異名の元に、現在でも世界的な人気を誇る太宰治（1909－1948）。太宰と芙美子の直接的な交流は公の場での数回しか知られておらず、関係性が注目されることは稀でした。

しかし、太宰が芙美子の家に訪れ、芙美子の家族と親しんでいることや、芙美子が装幀・挿絵を手掛けた太宰の代表作『ヴィヨンの妻』が両者の交遊の産物であることは、芙美子自身の回想から明らかになっています。さらに、芙美子は太宰の訃報に接して真先に三鷹の太宰の家に駆けつけ、座談会では、自死した太宰を責めるのではなく、冷静沈着でありながら、まるで太宰の代弁者であるかのような発言を残すなどしています。芙美子のこれらの振る舞いからは、太宰への慈愛に満ちたまなざしを感じずにいられません。

『ヴィヨンの妻』の発表・刊行から 70 年。太宰が大半の作品を著し亡くなるまで住み続けた三鷹から、苦節を経て大成した芙美子が贅とこだわりを尽くし愛した家への「太宰と芙美子」展の巡回は、太宰が芙美子を訪ねたかつての足取りを追うかのようです。

今回の協働企画展によって、太宰と芙美子の心の交流を感じていただければ幸いです。



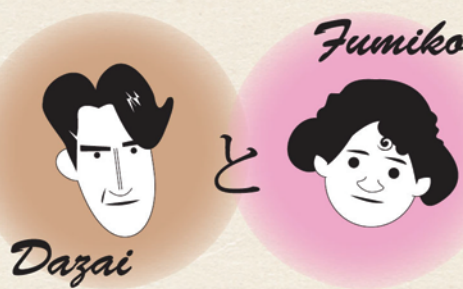
三鷹市太宰治文学サロン・イベント情報

■太宰治文学サロン・林芙美子記念館朗読交流会

平成 29 年 11 月 11 日(土) 18:00～18:50

朗読：林芙美子記念館ボランティア「ふみのしおり」

【会 場】太宰治文学サロン 定員：先着 30 名
事前申込み不要。当日 17:50 分から受付開始。
太宰治文学サロンにお越しください。



新宿区立林芙美子記念館・イベント情報

■太宰治文学サロン・林芙美子記念館朗読交流会

平成 30 年 4 月 14 日(土) 13:00・14:00 (各回 20 分)

朗読：太宰治文学サロンガイドボランティア

御手洗徹・山本則子

■林芙美子記念館土曜朗読会

平成 30 年 3 月 17 日(土)～6 月 30 日(土)

※但し 4 月 14 日(土)を除く

毎週土曜日 13:00・14:00 (各回 20 分)

朗読：林芙美子記念館ボランティア「ふみのしおり」

【会 場】林芙美子記念館 事前申込不要

《主な展示資料》

■『ヴィヨンの妻』初版本と初出誌、原稿（複製）に加え、林芙美子の実名がユーモラスに用いられた太宰の晩年作「眉山」関連資料、太宰の弟子・堤重久が芙美子邸へ同行した日の出来事を綴った『太宰治との七年間』、林忠彦撮影「太宰治」「林芙美子」オリジナルプリント。

■芙美子が太宰の死と心の深淵を独自の鋭い観点から述べた座談会、太宰への回想「友人相和す思ひ」を収録した初出誌など。



『ヴィヨンの妻』初版本と芙美子による屏絵
(昭和 23 年 筑摩書房)